

学校だより

11月号



やさしい子 たくましい子 考える子

黒門

発行日 令和7年10月31日
発行者 台東区立黒門小学校
校長 飯塚 雅之

学芸会に向けて

副校長 松崎かおり

秋の深まりとともに、朝夕の空気がひんやりと感じられるようになりました。校庭の木々も色づき始め、季節の移ろいを肌で感じる今日この頃です。子供たちは元気いっぱいにご過ごししながら、いよいよ学芸会に向けての準備に本格的に取り組んでいます。今年の学芸会は、創立115周年という節目の年にあたります。長い歴史の中で、多くの子供たちがこの学校で学び、育ち、巣立っていきました。その歩みを振り返りながら、今を生きる子供たちが未来へとつなぐ想いを込めて、今年のスローガンを掲げました。

「みんなで一致団結！ 役になりきって 115周年の想いを届けよう」

このスローガンには、子供たち一人一人が自分の役割に責任をもち、仲間と力を合わせて一つの舞台を創り上げるという強い意志が込められています。学芸会は、単なる発表の場ではなく、子供たちが協力し、挑戦し、表現する力を育む大切な学びの場です。練習が始まった頃は、台詞を覚えるのに苦労したり、動きが揃わなかったりと、戸惑う姿も見られました。しかし、日を重ねるごとに、子供たちは互いに声を掛け合い、励まし合いながら少しずつ自信をつけてきています。自分の役になりきることで、物語の世界に入り込み、仲間と心を通わせながら演じる姿は、まさに「一致団結」の表れです。

舞台に立つという経験は、子供たちにとってとても大きな挑戦です。緊張の中で自分の力を発揮し、観客の前で堂々と演じることは、自己肯定感を高める貴重な機会となります。拍手を受けたときの喜び、仲間と達成感を分かち合う瞬間は、きっと子供たちの心に深く刻まれるはずです。

今年の演目には、友情、希望、命の大切さ、自然とのふれあいなど、さまざまなテーマが込められています。それぞれの学年が工夫を凝らし、子供たちの感性と創造力が光る舞台となることでしょう。115周年という節目にふさわしい、心に残る学芸会になるよう、教職員一同も全力で支援しています。

また、読書の秋にちなみ、子供たちには本の世界にも親しんでほしいと思います。三浦綾子さんの『氷点』には、「人間は、読んだ本の分だけ深くなる」という言葉があります。読書は、心を耕し、想像力を育てる大切な営みです。学芸会の準備で忙しい日々の中でも、ほんのひととき、本の世界に浸る時間を大切にしてほしいと願っています。



保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。学芸会当日は、子供たちの努力と成長の姿をぜひご覧いただき、温かい拍手と励ましの言葉をかけていただければ幸いです。お子様が舞台上で輝く姿は、家庭と学校がともに育んできた成果でもあります。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期でもありますので、どうぞご家庭でも健康管理にご留意いただき、元気に学芸会を迎えられるようご協力をお願いいたします。

115周年の想いを胸に、子供たちが心をつなげて創り上げる学芸会。どうぞご期待ください。